



## 学校レポーター's コラム

# 「全力で挑戦した日本太鼓ジュニアコンクール県予選」

川根高等学校 2年 岡空谷美樹



私は中学生のとき、川根高校郷土芸能部の演奏を聞いたことがあります。郷土芸能部が中学校の文化祭で演奏してくれたのです。私はその演奏を聞いてとても感動し、太鼓をやりたいと思いました。

そして、川根高校に入学し、今は郷土芸能部の部長をしています。

郷土芸能部に入り、「赤石太鼓保存会」というものがあることを知りました。私は、もっと上手になりたいと思い、1年生の冬に保存会のジュニアチームに入りました。ジュニアチームというのは、高校生以下のチームです。ジュニアの練習は、やっぱり部活とは違いました。太鼓を始めたばかりの私には、練習についていくのがやっとでした。しかし、上手くなるのが実感でき、とても楽しかったです。太鼓がもっと好きになりました。

ジュニアには、県のジュニアコンクールで優勝するという一つの目標があります。今年は、「涼」という曲で出場しました。

この曲は、郷土芸能部の先輩でもある保存会の方が作曲してくれました。

コンクールは8月26日だったので、夏休みは太鼓一色という感じでした。大会の2週間前からは、毎日練習でした。前日には6時間の練習も行いました。ビデオを撮って、それを見ながら細かいところを直したり、意見を言い合ったりして、最終確認を行いました。全員の動きが揃うまで何回も行い、本番に臨みました。

ただ、私は初めてのジュニアコンクール

だったので、コンクールの雰囲気もイメージできませんでした。他のチームの実力もわからなくて、自分たちが優勝できるのか不安でした。

本番は、他のチームの演奏は聞かず、自分たちの曲に集中しました。そのせいか、演奏では、一人一人が全力を出しきることができました。

そして、結果発表の時、最初に「優秀賞、…あまぎ…」と言われました。天城とは、「天城連峰太鼓」のチームで、ジュニアコンクールで優勝は当たり前、全国大会でも優勝するようなチームです。私は、「また優勝は天城か…」と思い落ち込んでしまいました。しかし、その後で「最優秀賞、赤石太鼓」と言われたのです。

とても驚きました。私は優秀賞が優勝と勘違いしていたのですが、「天城連峰太鼓」のチームに私たちは勝ったのです。言葉にならないほど嬉しかったです。

そして、私たちは3月に石川県で行われる全国大会に出場することになりました。

これも、家族や指導者の方々、支えてくださったみなさんのおかげです。本当に感謝しています。

このコンクールを通して、努力は報われるということが再確認できました。川根高校郷土芸能部も、日々の練習で努力を忘れないしたいと思います。大会まで残り2ヵ月になりましたが、みんなで一つになって最高の曲をつくり上げていきたいです。

今月の裏表紙写真 川根高校郷土芸能部 赤石太鼓の演奏